

# 1. 評価報告概要表

作成日 2009年9月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072400268
法人名	吉岡林業有限会社
事業所名	グループホーム妙義の里のぞみ
所在地	富岡市妙義町諸戸88 (電話) 0274-73-2369

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年9月16日

## 【情報提供票より】(平成21年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年11月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	6人, 非常勤 4人, 常勤換算 4.2人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費6,000円/月	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	1日1,200円			

### (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9名	男性	4名	女性	5名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.2歳	最低	75歳	最高	91歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院、公立七日市病院、妙義診療所
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の近くには桜の里や紅葉が映える石門などがあり、四季折々の自然に恵まれ風光明媚な妙義山の東麓の静かな田園の中にある。総ての職員がホームの近隣に住み、小さい頃から知り合いの入居者も居て、昔話を聞いたり調理の方法を教えてもらうなど家庭的な雰囲気の中で過ごしている。職員は、会話の時間を多く取り、買いたい物や食べたいもの等の意向を聞き、通院の帰りに買い物に行ったり、時には出前を取るなど入居者の思いや希望をかなえる支援をしている。また、毎朝玄関や庭を掃除したり、犬と遊んだり、日記を書いたり、喫煙を楽しむなど、一人ひとりの気持ちや思いを大切に個々の能力に応じ自立した生活ができる支援に取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題である「災害対策」については、消防署の指導のもとに地域の人々に協力依頼を行っている。また、「重度化や終末期ケア」については、家族の希望を聞き職員会議で話し合ったが、重度化や終末期に向けた方針は明確にされていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者と職員が話し合い作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>偶数月に開催し、事業内容や利用状況・自己評価や外部評価等を報告し意見交換を行っている。家族から「できるだけ外出させて欲しい」との要望があり、受診時の買い物や近隣の畑での野菜の栽培管理・プランターの花の水やり等、意見を活かした取り組みをしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>契約時に、苦情相談窓口や処理体制・手順が記載された「利用者からの苦情を処理するために講ずる措置の概要」、健康保険団体連合会が作成した苦情等に関するパンフレットを渡し、説明している。また、面会時や毎月の利用料を持参した際に、家族からの意見や苦情等を表せる雰囲気作りにも努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の小学校で行う町主催の災害訓練や道路清掃に参加している。日本舞踊等の訪問の際には近隣の人々に声かけを行い共に楽しんだり、隣接している児童館の子ども達や職員の子どもが遊びに来るなど、地域の人達との交流に努めている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者 個々の人格を尊重し、地域の中で各々の個性を活かす日常生活を具現し、共有することを旨とする。此処に集う者皆家族」という事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議や申し送り時に、管理者が理念を読み上げている。理念に沿って、排泄時の声かけに配慮したり、野菜の栽培管理を入居者と共に行い季節毎の新鮮野菜を食卓に提供したり、入居者の希望に沿った食事の提供・買い物や墓参りを行うなど、押し付けがましくなく個性を大切に日々楽しく過ごせるよう支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校で行う町主催の災害訓練や道路清掃に参加している。日本舞踊等の訪問の際には近隣の人々に声かけを行い共に楽しんだり、隣接している児童館の子ども達や職員の子どもが遊びに来る等地域の人達との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者と職員が話し合い作成している。前回外部評価の改善課題である「災害時における消防署の指導と地域の人々の協力依頼」については改善が図られたが、「重度化や終末期ケア」については職員会議で話し合ったが方針は明確にされていない。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催し、事業内容や利用状況・自己評価や外部評価等を報告し意見交換を行っている。出来るだけ外出させて欲しいとの家族の要望に沿い、受診時の買い物、畑の種蒔きや除草・プランターの水やり等を職員と共に行っている。また、今年は運営推進会議構成員も参加した消火避難訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	要介護更新認定申請書の提出時やグループホームの事業者を対象とした市主催の「地域ケア会議」が開催(年3回開催)された際に、空き状況等の情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料を持参した際や面会時に、健康状態や日常生活状況等を報告している。入居者が必要とする買い物は、事前に家族の了解を得て立替払いとし、毎月の利用料請求書に領収書を添付し精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情相談窓口や処理体制・手順が記載された「利用者からの苦情を処理するために講ずる措置の概要」、健康保険団体連合会が作成した苦情等に関するパンフレットを渡し、説明している。また、面会時や毎月の利用料を持参した際に、意見や苦情等を聞くよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	単独事業所のため職員の異動はなく、また、過去3年間退職者もなく職員の定着率が高い。過去の新規採用者には、管理者がマンツーマンで指導し、慣れるまでの夜勤も2人体制で行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	保健所が主催する感染症に関する研修会や消防署主催の救急救命講習会に、参加している。管理者及び計画作成担当者は、認知症に関する外部研修会に参加し、職員会議で概要報告を行っているが、その他の職員は参加していない。	○	その他の職員も認知症に関する外部研修に参加され、一層のサービスの向上が図られるよう期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の大会やレベルアップ研修会(職員相互派遣研修・支部主催の研修)に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学して頂き、時には他のグループホームの見学を勧めている。運営規程や重要事項を説明し、体験入居して頂くなど事業所の雰囲気を知ってもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	小さい頃の仕事は大変だったと話を聞いたり、野菜を美味しく食べる調理の仕方や飯焼き餅の作り方を教えてもらっている。蚕の飼育や畑仕事、輪投げやトランプ遊びを共に行うなど共に支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家庭的な雰囲気の中で会話の時間を多く取り、買いたいものや食べたいもの等の意向を聞き、通院の帰りに買い物を行ったり、時には出前を取るなど入居者の思いや希望がかなえられるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時や利用料持参の際に、家族の意見や希望を聞き、介護支援専門員が毎月入居者一人ひとりの健康状態等をまとめ、職員がその内容を検討し意見を出し合い、入居者個々の能力に応じ自立した生活が出来るよう介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期見直しを3ヶ月・6ヶ月に行い、介護計画の写しを家族に渡し説明している。また、骨折で退院した際や介護支援専門員がまとめた月毎の報告に変化が生じた時は、その都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お彼岸の墓参りは原則家族対応であるが、時には職員が同行したり、受診の際の送迎や入居者の整髪は総て職員が対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	総ての受診は職員が対応し、重症時は家族の同行を求め、入居者は従前のかかりつけ医の診療を受けている。診療内容は、面会時や利用料持参の際に家族へ報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	前回の外部評価の結果を踏まえ、重度化や終末期における家族の意向を聞き職員会議で話し合ったが、方針は明確にされていない。	○	重度化や終末期の対応について方針を明確にし、関係者全員が共有することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時の誘導は、プライバシーを損ねないよう言葉かけに注意している。職員相互派遣研修で、他のグループホームの職員から呼び名を「さん」に統一するよう提案があったが、職員によっては小さい頃から入居者と知り合いの人もおり、他人行儀にならない程度の支援に配慮して昔ながらの「チャン」で呼びかけている職員もいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝玄関や庭を掃除する入居者、犬と遊ぶ入居者、買い物や墓参りを希望する入居者、日記を書く入居者、喫煙を楽しむ入居者等、入居者一人ひとりの気持ちや思いを大切に支援に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望や季節の食材を取り入れた調理を提供している。入居者は、畑で収穫した新鮮野菜の仕込みや配膳・下膳を職員と共に行っている。土曜・日曜は、入居者の希望による出前の寿司やカツ丼等を取っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を原則としているが、希望により夏場はシャワー浴で対応している。また、檜の切れ端を入れた檜湯、各地の温泉入浴剤やラベンダーを使用して楽しく入浴できるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しやたたみ、食事時等のお茶入れ、玄関や庭の掃除など、日々の役割を担っている。トランプや輪投げ、1人月1回の受診時の買い物、近隣のゴルフ場や地区で行う花火大会の見物、花見を兼ねたドライブ等の気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩、ベランダでの日光浴、毎朝犬と遊んだり、プランターの花に水をやる等行っている。また、畑の種蒔きや除草、祭りの見物、花見を兼ねたドライブなどできる限り戸外に出る支援を心がけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設以来、鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の小学校で行う町主催の災害訓練に参加している。ホームでは、年2回行う消火避難訓練の内1回は消防署や消防団・運営推進会議のメンバーも参加し、夜間を想定して放水試験も行っている。また、地域の人々に災害時の協力依頼を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は調理後に記録しているが、栄養バランスに配慮し前の食事と重複しないよう料理している。ケース記録に食事摂取割合と1日5回の水分摂取状況(1回200ccを目安)を記録している。また、入居者の状態により刻み食や粥食を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	要所要所にステンドグラスが使用され、明るい雰囲気である。広々とした居間にはマッサージ機や卓球台・輪投げの遊具が備えられ、子どもが遊びに来た時の電気自動車などが置かれている。居間の和室で横になって休んだり、冬は職員と入居者が炬燵を囲み歓談するなど居心地良く過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には整理ダンスやテレビ・ラジオが持ち込まれ、押し花の絵やドライフラワーが飾られている。また、上毛新聞スポーツ一面に大きく掲載された孫の写真が貼られるなどそれぞれの居室となっている。		